

第四、 齒科と貧民救療

第五、 齒科醫師法違犯被告事件の判決について

第六、 醫師法違犯事件に関する諮問及び之に対する回答に就いて

第七、 吾人齒科醫師は特に齒牙清掃部なるものを設置するの必要あるや

第八、 齒科学生登録の必要性を論ず

第九、 再度齒科学生登録論

第十、 抜齒致死事件に就いて

附録 齒科醫師法と醫師法、 醫師齒科専門標榜其他に関する件、 ほか7項目

自序には、

「齒科医学は齒牙を中心として其の隣接組織器関の疾病の予防、 原因病理、 救治、 補綴等を攻究するところの学問なり 齒科醫師は之れ等學術的の知識と技能を有し且之れを實際に応用して國民の保健を企図するところ學理的高等業務を以て職とするものなり 換言すれば國民の健康を維持し國家の民福を増進するところの公益的職業なり而して齒科医学の研鑽攻究は齒科学界に於て討議研究すべきものなるも此の學術を一般公衆に施すところの齒科医業に至ては全く社会と相觸接するに至るものなり 此所に於てか一般公衆に対して齒科醫術を施すところの齒科醫師は齒科医学乃至は齒科医業と社会或いは自己と社会との交渉に就て慎重なる注意を必要とするものなり 即ち齒科医事に関する法律制度其他經濟殊に齒科医療材料上の經濟關係等に亘りて研鑽顧慮する事極めて緊要なり 然るに若し齒科醫師にして之れ等社会との交渉を疎にして或いは全く忘却して齒科医業ないしは齒科的診療の何物なるかを知らずして齒科医業に従事するものありとせば齒科界を毒する事他に其の類例あるを知らず而も其害毒は一般に及し遂には自己を毒するに至るものなり 之れを要するに其の罪は齒科医業と社会の交渉を忘却或いは無視したるに因るものなりされば齒科醫師が齒科医業本来の真意義を發揮するには齒科医業なる社会現象を規律するところの此の齒科医事法制に就き充分に觀念悟得する事肝要なり 本書は余が時に触れ機に臨み研究且つは開陳したる愚見の稿を集彙して一本となしたるものなるが故に其の文体一致せず且つ重複せるところあらんも齒科医事法制上の觀念悟得の一助とならば余の幸甚とするところなり」とある。

本書の内容についてその概要を述べた。

8) わが国最古のジェンナー碑

The Oldest Jenner Monument in Japan

東京都 新藤 恵久

Yoshihisa Sindo, Tokyo

嘉永2年(1849)7月、ようやく日本でも牛痘が成功した。

翌3年、代官江川英竜が、まず伊東玄朴に依頼して自分の子供に接種して実例を示した。ついで伊豆の3人に続いて、多摩群横山宿(現八王子市)の長兵衛せがれ兵蔵(6歳)、元八王子村の甚八せがれ小権太郎ら6人に接種したが経過はすこぶる良かった。その結果多摩地区ではほとんどの者が接種をうけるようになった。

このようにこの地区が全国に先駆けて種痘が普及したのは、英竜に協力した当地区の多数の蘭方医、八王子千人同心たちの協力があったからである。」

この地区の医師(漢方医)青木得庵は、ジェンナーの功績を称えて顕彰の祠を庭内に作ったが長年の風雪で壊れてしまった。得庵没後、妻喜代は村内の清水寺に碑を建立した。

碑面 善寧兄先生碑

碑陰 青木得庵種痘普及為記念

明治廿五年四月建之青木喜代

善寧兄先生碑建設由来

去今四十有七年青木得庵初メテ此地ニ種痘術ヲ唱フ蓋シ往昔以降彼ノ猖獗ナル天然痘ノ流行ハ此年亦我居民ヲ驅テ其慘禍ヲ被ラシム得庵常ニ大ニ之ヲ憂フ格好シ長子玄禮東都伊東玄朴ノ門ニ学ビ會マ牛痘接種術及ビ痘種ヲ伝ヘテ之ヲ贈ル得庵乃チ直ニ其子桃吉ニ移シ其神効ヲ驗シ得タルヲ以テ濟世ノ情禁スル事能ハズ挺身専ラ其術ヲ唱ヘ熱心勧誘ストイエドモ村民頑蒙ニシテ群疑百出敢テ一人ノ其術ヲ受クルモノナシ然レドモ得庵千挫不單身山川ヲ涉シ金錢ヲ惜マズ勞力ヲ辞セズ戸々妄誕ヲ手弁シ村々無稽ヲ啓キ尽庵憤勵スル事数年遂ニ能ク世俗ノ昏夢ヲ喚破シ遠近(武蔵南北西ノ

三多摩郡、相模国ノ高座津久井愛甲三郡)ヲシテ
永ク恐ルヘキ痘毒ノ来襲ヲ免レシムルヲ得ルニ至
レリ得庵没スルノ前玄禮壯ニシテ逝キ芳齋省庵純
造相繼テ業ヲ受ク近郷亦夫ノ天然痘ノ惨声ヲ聞カ
ズ

得庵依テ森之下庭内ニ牛痘發明者ノ為ニ一祠ヲ
建テ以テ其絶大ノ功績ニ報セリ然ルニ年ヲ閱スル
数十年大破ニ及び其痕ヲ墨留メサルニ至レリ由テ
亡得庵妻喜代遺志ヲ奉シテ一小碑ヲ瑞石山清水寺
ニ建テイササカ得庵玄禮等在天ノ靈ヲ慰ムト云爾
明治二十五年五月三日武蔵国南多摩郡堺村相原回
春堂医院ニ於テ青木純造誌

『善那氏種痘發明百年記念会報告』明治三十年
三月廿八日

9) 豆腐小僧と天然痘

Tofu boy and smallpox

九州歯科大学 竹原 直道

Tadamichi Takehara, Kyusyu Dental College

舌出しや一つ目を特徴とし、紅葉豆腐を盆に持
つ豆腐小僧が最近注目を浴びている。しかし豆腐
小僧の化物としての出自は今だ謎とされている。
「舌出し」をキーワードに、歯科学への文化史的ア
プローチを試みてきた演者としては、無関心を装
う訳にもいかない。そこで豆腐小僧の図像学的性
格分析を行った。その結果、豆腐小僧と、江戸時
代の死因の一、二を争う感染症であった天然痘と
の関係、もっといえば「豆腐小僧は疱瘡神の見立
てであった」ことが明らかとなったので報告する。

背 景

豆腐小僧

豆腐小僧は1775年から1806年の間に出版され
た絵入りの草双紙、黄表紙本のなかに初めて登場
する。その姿は童形で、頭が大きく、大笠を被り、
手に紅葉マーク入りの豆腐(紅葉豆腐)を乗せた
盆を持っている。豆腐小僧とは何者なのか、なぜ
豆腐を持っているのか、その意味は不明とされて
きた。

疱瘡絵

当時、江戸では天然痘(痘瘡、疱瘡)が大流行
していた。天然痘はウィルス性の感染症で、特に

小児の死亡率が高く、運良く死ななくとも、顔に
あばたが残り、目に入ると失明した。しかも当時
病因は不明で、一旦流行するとなす術がなかった。
そのため、病除けの民間療法が行われ、疱瘡神の
詫び証文、疱瘡踊り、疱瘡送り、疱瘡祝いなどの
習俗があった。その一つが疱瘡絵で、紅刷り。天
然痘除けの呪力を持つ護符として用いられた。疱
瘡絵の絵柄として、桃太郎、金太郎、源為朝など
伝説上の武将、みみずく、だるま、でんでん太鼓、
鯛車、春駒、犬張子などの玩具が描かれた。無事
天然痘が快癒すると疱瘡絵を川に流す風習があっ
たので、現在残っているものは少ない。

疱瘡神

一方錦絵には子供の玩具、強い武将などともに
に疱瘡神が描かれたものがある。疱瘡神は天然痘
から子供を守る守護神的性格のものと、疫病神と
があり、別々の神の場合もあるが、同一神に両方
の性格を兼ね備えるものもあり、その性格は時代
や場所によっても複雑に異なっている。

結果と考察

いくつかの黄表紙本の豆腐小僧と、描かれた疱
瘡神図像の着物の柄を比較したところ、いずれも
その着物に共通の玩具模様が認められ、みみずく、
だるま、でんでん太鼓、春駒、犬張子等々の疱瘡
絵のモチーフが、豆腐小僧の着物の柄に描かれて
いた。このことから豆腐小僧は疱瘡神のパロ
ディーとして黄表紙本に登場したのと考えられ
る。つまり豆腐小僧は疱瘡神の見立てであったと
いえる。

しかしすべての豆腐小僧が疱瘡絵の玩具模様
の着物を着ているという訳ではない。そこで、それ
以外のファクター、例えば大笠の意味は痘瘡の瘡
(かさ)のことではないか、豆腐小僧が持つ酒徳利
は酒湯と関係があるのではないか、何故豆腐小僧
は童形なのか、紅葉豆腐の意味は、また患者の病
衣、豆腐小僧の足指などについても検討した。そ
の結果、着物の柄だけでなく、その他の証拠も豆
腐小僧が疱瘡神のパロディーであるとする演者の
結論を補強するものであった。

結 論

豆腐小僧は疱瘡神の見立てだった。